

2015年度 自己点検・評価【 経済学研究科 】

C票

<目標、行動計画>策定シート

作成日:2016年 2月12日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】						
(タイトル)						
規模に応じた教育、研究支援体制を再構築する。						
(狙い内容)						
大学院生の人数が少ないことを利用して、履修者数や履修者の個々のニーズに応じた授業を提供できるよう、カリキュラム体制を改善する。また、研究職志望の大学院生に対して、学外、とくに海外での研究報告の支援を提供する。						
1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)						
少ない在籍者数を前提に、履修者の個々のニーズに応じた授業を提供できるカリキュラム体制の構築、研究職志望の大学院生の学外や海外での研究報告を支援する体制の構築						
2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。						
大学院在籍者数の減少を背景に、一定の規模の在籍者数を前提とした現行のカリキュラム体制に不備が生じている。また履修者の個々のニーズにも対応しきれていない。加えて近年研究職志望の大学院生は学外や海外での研究報告を積極的に行うことを強く求められているが、これに対する財政的支援が不足している。						
3. 達成度評価						
評価指標	カリキュラム改革の進捗度合い 国内外研究報告に対する資金助成制度の拡充度合い			評価尺度	A:カリキュラム改革、研究支援拡充の実行 B:改革、拡充案の作成と承認 C:WGの立ち上げ D:現状維持	
4. 年度毎の目標値						
2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
D	C	C	B	B	B	A

【A票:教育研究目標2】						
(タイトル)						
国際的に活躍する専門知識を備えた職業人を養成するため、アカデミズムと実務の融合を目指す多様なコースメニューを用意する。						
(狙い内容)						
経済学の専門知識を備え国際的な活躍する高度職業人を養成するために、国連・外交コースを履修する制度を整備する。前期課程は2年しかないので、国連・外交コース履修準備のために学部教育との連携を図る。						
1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)						
修士号修得後に、国際機関で働く高度な学生を、1名程度修了させる。						
2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。						
平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学等事業 スーパーグローバル大学創成支援」(タイプB:グローバル化牽引型)に、関西学院大学の構想「国際性豊かな学術交流の母港『グローバル・アカデミック・ポート』の構築」が採択され、その一つとして研究科の副専攻コースが新設される。現状、大学院への進学率が低下し続けている。しかし、高度職業人の修士号取得は、グローバルスタンダードであり、このことを日本においても標準化とするための手段として、本学でこのコースを定着させたい。						
3. 達成度評価						
評価指標	国連・外交コース修了者数と国際機関への就職内定者数			評価尺度	A:1名以上の国際機関就職内定者 B:1名以上の国連・外交コース修了者 C:1名以上の国連・外交コース履修者 D:コース未設定あるいは修了者なし	
4. 年度毎の目標値						
2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
D	D	D	C	C	B	B

【A票:教育研究目標3】**(タイトル)**

対外的な研究成果の発信に努め、教育へのフィードバックを含め、研究成果を社会に還元し寄与していく研究科を目指す。

(狙い内容)

教員による研究活動を活性化し、社会へその成果を還元していくために、学術誌、ディスカッションペーパー、セミナー、コンファレンスなどにおける研究発信に加え、研究科ホームページなどICTを利用した情報発信を充実させていく。特にグローバル化が進むなかで、英語での情報発信を増やしていく。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

学術誌、ディスカッションペーパー、セミナー、コンファレンスなどにおける研究発信をこれまで以上に積極的に進める。また、セミナー、コンファレンスなどの開催も積極的に行うことで研究交流を促進し、同時に研究成果の発信に努める。具体的には、掲載論文数の増加、掲載学術誌の水準の向上、セミナー、コンファレンスなどの開催の頻度の向上が挙げられる。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

教育のグローバル化が進展する一方で、研究活動もグローバル化が進展している。こうした状況において、対外的な研究発信を積極的に行うことが大学にとっては重要であり、本学が対外的な評価を得るためには欠かせない。しかしながら、セミナー、コンファレンスの開催、教員の研究活動の情報発信などにおいて必ずしも活発に行われているとは言い難い。今後これらについて改善する必要がある。

3. 達成度評価

評価指標	発信できる研究成果としてのディスカッションペーパー発行数と経済学セミナーの開催回数	評価尺度	A:行動計画どちらもA B:行動計画どちらもB C:行動計画どちらもC D:それ以外
------	---	------	---

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
D	D	C	B	B	A	A